



現実のトビラ
CASE.01



みんなと、
同じことを
したくない。

文学部人間学科 40 期

内定先：株式会社プラップジャパン

齋藤 勇一

文学に没頭し、就職に興味の無い日々。

みんなと同じことをしたくない。組織の歯車には絶対になりたくない。創価大学に入学して早々に、私は企業就職を選択肢から除外しました。文学部生として研究者や評論家になり、自らの筆一本で生きていこうと思っていました。そのため、毎日哲学書や文学書に没頭し、休みの日には大学院生の勉強会に足を運びました。その中で日中関係や中国の歴史に関心を持った私は、3年次に北京大学へ留学しました。



【私の愛読書】

カント著『純粋理性批判』

※長期休暇を全て使って、読みぬいた本。

徹して学んだ経験は、大きな自信となっています。

チームでやるからこそ大きな成果を成し遂げられることに強く魅力を感じた。

企業で働くことを避けてきた私でしたが、ある日本人駐在員との出会いをきっかけに、ビジネスに興味を持つようになりました。帰国後は、民間企業での

働き方を体験してみたいと思い、企業の信用調査を行う会社のインターンシップに挑戦しました。実際に業務を行う中で、社会における企業の役割の大きさや影響力を肌で実感しました。

インターンシップ終了時に意識が変化。



インターンシップ先で

そして、様々な専門性を持った社員とチームで働ける企業という場所に、強い魅力を感じました。インターンシップ終了時には、入学のときには思ってもみなかった民間企業へ就職することを決めていました。その後は宣伝広報の会社から内定を頂くことができました。今までにないPRの仕組みを考え、流行の仕掛人になることが現在の私の夢です。

私の INTERNSHIP

帝国データバンクと三井住友海上のインターンシップに参加しました。帝国データバンクでは、海外の企業との取引を行う「外国課」で就業体験をしました。中国やイスラエルなど海外の企業とやり取りをしながら、業務を行いました。また、三井住友海上のインターンシップでは、他大学のメンバーと一緒に新規事業の企画立案を行いました。

※良き相棒の、電子辞書。これを片手に英文の書類を作りました。



ある日のスケジュール

- 9:00 ~ 12:00 海外とのテレビ会議に同席
- 12:00 ~ 13:00 社員の方と昼食
- 14:00 ~ 17:00 電話やメールで企業調査の依頼を受ける
- 17:00 ~ 19:00 他大学の参加者と新規事業立案のグループワーク